

第7章 調査のまとめ

第7章 調査のまとめ

7.1 常備消防力の運用体制について（第4・5章参照）

常備消防力の署所の運用効果並びに適正配置を把握するために、ポンプ車及び救急車を対象として算定した。車両の算定にあたっては現状体制に準じポンプ車20台、救急車14台を運用するものとしている。

7.1.1 現状体制

常備消防力の署所の運用効果を把握するために、ポンプ車及び救急車を対象として算定した。現状ではポンプ車20台、救急車14台を運用している。

管内世帯数の9割を守備するのに管内平均で6分かかっている。これは、15署所全てを移転しても同様の傾向であり、6分で到着できる建物火災(世帯数)は93%にしかない。

直近署所からの走行時間をみると、全域の走行時間は平均3.8分、4.5分以内に到着できる世帯は70%、6分以内89%、7.5分以内96%、9分以内99%であった。署所配置の評価指標とした4.5分以内の到着比率は70%となっている。

次いで、第2着消防隊の走行時間をみると、全域の走行時間は平均5.3分、4.5分以内に到着できる世帯は48%、6分以内67%、7.5分以内78%、9分以内89%であった。

救急隊の走行時間をみると、全域の平均時間4.0分、4.5分以内に到着できる救急事案は69%、6分以内87%、7.5分以内96%、9分以内98%であった。

7.1.2 東・朝日・川添の3署所適正

東・朝日・川添の3署所を適正配置しており、現状と同じ署所数での守備体制となる。

東消防署は同位置、朝日分署は1km程東寄り、川添出張所は0.5km程北寄りに設置されているが、概ね現状と同配置といえる。

車両配置は、各署所とも現行と同じ消防力配置として算定した。

直近署所からの走行時間をみると、指標とした4.5分以内の到着比率は3ポイント増加し73%となっている。署所をわずかずつ移転することで、運用効果を向上させることはできるが概ね現状位置であることから、既に3署所としては現状で適正配置で守備していることがわかる。

次いで、第2着消防隊の走行時間をみると、4.5分以内の到着比率は2ポイント増加し50%となっている。全域ではほとんど変化はないが、第4方面隊はわずかに走行時間が短縮し、第8方面隊はわずかに長くなっている。

救急隊の走行時間をみると、4.5分以内の到着比率は2ポイント増加し71%となっている。全域ではほとんど変化はない。

7.1.3 東・川添の2署所を統合適正

東・川添の2署所を統合して適正配置しており、現状より1署所減じた数での守備体制となる。

統合した署所の適正位置は、東消防署の1.5km程西寄り、川添出張所の2.5km程北寄りに設置されており、国道11号線片田交差点の南側の交差点付近となる。

車両配置は、統合した署所には東消防署相当の消防力を有することと考え、消防隊2、救急隊1を配置することとして算定した。

直近署所からの走行時間をみると、指標とした4.5分以内の到着比率は1ポイント増加して71%となっており、平均走行時間は変わらない。また、第5方面隊では4.5分以内の到着比率は21ポイント減少し59%となっており変化が比較的大きい。ただし、この運用効果は他の方面隊と比べて極端に遅いものではない。

次いで、第2着消防隊の走行時間をみると、4.5分以内の到着比率は4ポイント増加し52%となっている。それ以降の到着比率はわずかに低下しているものの、平均走行時間は変わらない。これは東消防署が西に移転することで第8方面隊の平均走行時間が長くなっているものの、第4方面隊では短くなっていることによるものである。

救急隊の走行時間をみると、4.5分以内の到着比率は4ポイント増加し73%、平均走行時間は変わらない。第4方面隊では走行時間は0.6分短縮し、第8方面隊では0.4分長くなっている。

7.1.4 朝日に移転・東と川添の2署所を統合適正

朝日に移転し、東・川添の2署所を統合して適正配置しており、現状より1署所減じた数での守備体制となる。

朝日分署の位置は、瀬戸大橋通りの福岡町1丁目交差点付近となり、統合した署所の適正位置は、東消防署の2.0km程南西寄り、川添出張所の1.5km程北寄りに設置され、県道10号線宮之原交差点付近となる。

車両配置は、統合した署所には東消防署相当の消防力を有することと考え、消防隊2、救急隊1、朝日分署は現行と同じ消防力配置として算定した。

直近署所からの走行時間をみると、指標とした4.5分以内の到着比率は1ポイント増加して71%となっており、平均走行時間は変わらない。第5方面隊では4.5分以内の到着比率は8ポイント減少し72%、平均走行時間は0.5分長くなり、第4方面隊では平均走行時間は0.4分長くなる。いずれも変化は比較的小さく、運用効果は他の方面隊と比べて同程度を維持している。

次いで、第2着消防隊の走行時間をみると、4.5分以内の到着比率は3ポイント増加し51%となっている。それ以降の到着比率はわずかに低下し、平均走行時間も0.1分長くな

っている。これは東消防署が西に移転することで第8方面隊の平均走行時間が長くなっていることが要因である。

救急隊の走行時間をみると、4.5分以内の到着比率は6ポイント増加し75%、平均走行時間は0.2分短縮している。第8方面隊では走行時間は0.4分長くなるが、第1、第4、第5、第6方面隊では0.1～0.5分短縮している。

7.1.5 署所移転のまとめ

東・朝日・川添の3署所の適正配置を検討したところ、現状と同じく3署所で守備するのであれば現状署所は概ね適正位置に配置されていることが分かる。

この地域を2署所で配置することを考え、東消防署と川添出張所の統合位置を考えた場合、概して東消防署の西側、川添出張所の北側に適正位置が求められた。なお、このとき朝日分署は現状位置よりも南側に移転して利便性を向上させることが、地域の消防力向上に寄与することになる。

署所を統合することで1出張所を減じてはいるが、運用効果は消防局全体としては大きな変化は見られなかった。

ただし、各方面隊別には変化が見られた。第5方面隊では直近署所が遠くなる一方で、第2着ポンプ隊及び救急隊の走行時間は改善している。また、第4方面隊では算定パターンにより運用効果に差はあるが、概ね時間短縮の効果が見られる。第8方面隊では、最先着隊は現状と変わらないが、第2着隊の走行時間が長くなるため、常備消防力と消防団との連携、ならびに予防対策の普及啓発などの取り組みが求められる。

なお、朝日分署の南方移転については、消防局が整備している救急艇の運用に関連するものである。移転検討にあたっては、救急艇の運用に支障がないよう十分な運用体制の整備検討が必要である。

7.2 非常備消防力の整備状況の把握について（第6章参照）

高松市内の消防屯所を対象として、運用の水準と地域的な過不足について把握を行った。対象としたのは消防ポンプ自動車あるいは小型動力ポンプ付き積載車が配置されている屯所とし、移動や消火能力を考慮して小型動力ポンプや軽積載車が配置されている屯所は算定から除外した。

7.2.1 現状体制

非常備消防力である消防団員は普段は自分の職業に就いているため、火災を覚知後に屯所に参集して出動する。このため常備消防力と比べて出動体制に大きな差がある。

非常備消防力の出動にかかる時間を把握するため、平成17～20年中の事案について時間データがあるものを基に集計したところ、市全体では平均2.7分要することが分かった。

また、当該屯所からの走行時間をみると、市内全域では平均1.8分、2分以内に到着できる世帯は66%、3分以内93%、4分以内99%、5分以内99%であった。

7.2.2 整理検討地区、補強検討地区の把握

今後の非常備消防力の整備検討に資するため、運用効果を基にして基準を設定し整理検討地区及び補強検討地区の抽出を行った。

その結果、以下の各地区が整理検討地区及び補強検討地区として抽出された。

判別内容	地区名
整理検討地区	室町, 室新町, 東ハゼ町, 西ハゼ町, 紙町, 松並町, 西春日町, 勅使町, 田村町, 上天神町, 三谷町, 多肥上町, 出作町, 仏生山町, 三名町, 鹿角町, 成合町, 一宮町, 寺井町, 川部町, 円座町, 檀紙町, 春日町, 新田町, 高松町, 屋島中町, 元山町, 東山崎町, 下田井町, 林町, 六条町, 上林町, 由良町, 川島本町, 川島東町, 小村町, 大字大野/寺井, 大字浅野, 大字川東下, 大字川東上, 大字川内原, 大字岡, 大字牟礼, 庵治町市街
補強検討地区	新北町, 茜町, 瀬戸内町, 浜ノ町, 峰山町, 大字原

7.2.3 近接している屯所の把握

整理検討地区、補強検討地区の把握とあわせて、屯所自体に着目して屯所間の直線距離を基に、近接性について整理を行った。

その結果、以下の各屯所が抽出された。

判別内容	屯 所 名
隣接する屯所 が近い屯所	東部, 西部 2, 鶴尾 2, 鶴尾 3, 太田 1, 多肥 2, 仏生山 1, 一宮 2, 一宮 3, 香川 2 部船岡, 香川 2 部実相寺, 香川 2 部上浅野, 香川 1 部臼井, 庵治 4 部湯谷, 庵治支所, 庵治 3 部宮東, 庵治 1 部才田, 庵治 3 部北村, 庵治 3 部松尾, 庵治 2 部王の下, 庵治 1 部浜
隣接する屯所 が遠い屯所	屋島 1, 前田 1, 東植田, 東植田菅沢, 西植田神内, 東植田城, 香西, 下笠居 1, 下笠居 2, 国分寺 1, 国分寺 2, 国分寺 3, 国分寺 4, 香南 2, 塩江 1 部, 塩江 2 部, 塩江 3 部, 香川 4 部東谷, 塩江 2 部岩部, 牟礼 1, 庵治 4 部高尻

7.2.4 今後の屯所整備のまとめ

今後の消防屯所整備にあたっては、地区から見て消防団の運用効果ならびに屯所の近接性の 2 面から判断し、屯所の補強にあたっては補強検討地区であること、ならびに隣接する屯所が遠いことを優先条件として付近の屯所を補強していくことが効率的である。また、同様に屯所の整理にあたっては整理検討地区であること、ならびに隣接する屯所が近いことを条件として、付近の屯所整理を検討することが地域の消防力低下を避けながら効率化を図ることに効果的である。